

第2部

まちづくり ビジョン

将来都市像

基本理念

施策大綱

後期まちづくり計画における指標体系

将来都市像

社会経済情勢、市民アンケート、現状と課題及び将来展望を踏まえ、10年後の上田市の理想の将来都市像とキャッチフレーズを次のように掲げます。

将来都市像

ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる 健幸都市*

ひと笑顔あふれ

市民が明るく健康で暮らせるまちは笑顔があふれます。誰もが暮らしやすい笑顔あふれるまちづくりを目指します。

将来都市像に込める思い

輝く未来につながる

市民の力強い活動と若者が集まるまちづくりによって、未来に向けて、まちの活力、魅力、輝きを高めます。

健幸都市

市民一人ひとりがライフスタイルにあった幸福を感じ、いきいきと健康に暮らせる、人と人がつながるまちづくりによって、上田市の将来にわたる持続的な発展を目指します。

* 健幸：健康で幸せなこと。身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安全・安心で豊かな生活を送れること。

* 健幸都市：人口減少・少子高齢化が急速に進む中、高齢になっても地域で元気に暮らせる社会を実現するために、身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安全・安心で豊かな生活を営むことができるまち（スマートウェルネスシティ）

キャッチフレーズ

住んでよし 訪れてよし 子どもすくすく幸せ実感 うえだ

住んでよし 訪れてよし

上田市は晴天率が高く、田舎の魅力と都市の利便性を兼ね備えた、とても暮らしやすいまちです。また、多くの魅力ある観光資源を持っています。いつまでも住み続けたい！何度も訪れたい！住みたい！と思える「ふるさとうえだ」を目指します。

キャッチフレーズに込める思い

子どもすくすく 幸せ実感

子どもたちは希望であり宝です。上田市の将来を担う子どもたちが、恵まれた自然の中で健やかに生まれ育ち、個性を伸ばし、「ふるさとうえだ」を大切に思い、夢や希望を持って上田の地で活躍していくことを願います。そして、子どもからお年寄りまで、みんな元気で幸せに暮らせるまちを目指します。

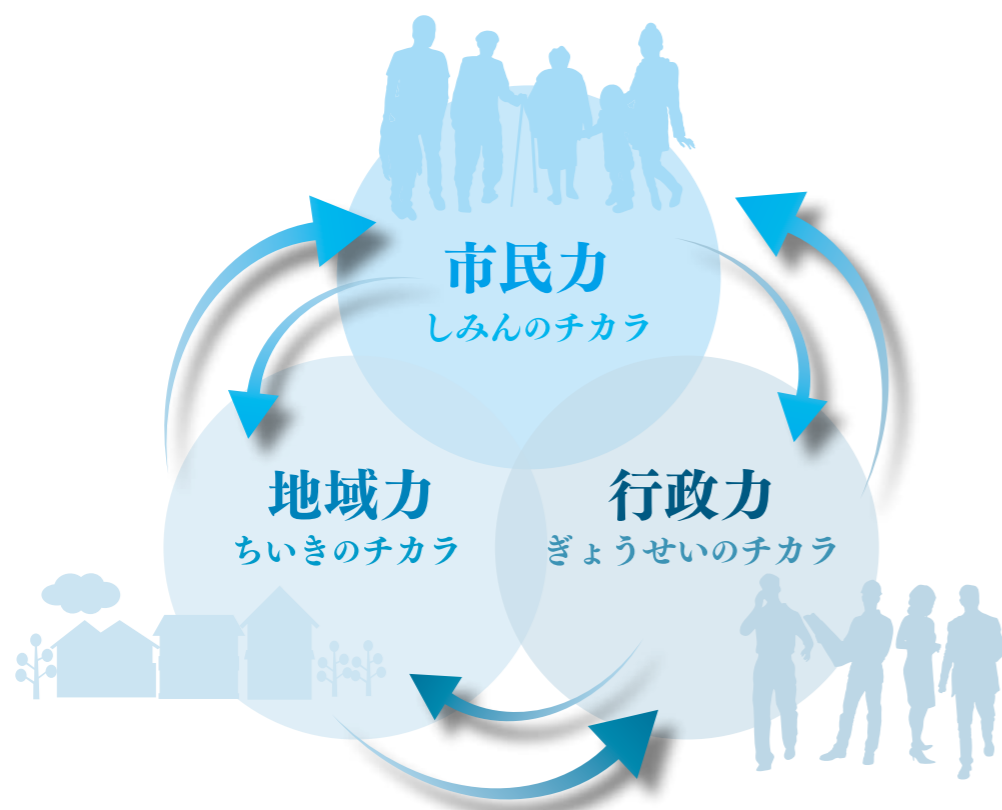


基本理念

将来都市像の実現に向け、まちづくりに取り組む上での基本的な考え方として、基本理念を次のように掲げます。

基本理念

市民力、地域力、行政力、 それぞれが役割を果たし、 協働のもと、まちの魅力と 総合力を高めます。



基本理念に
込める思い

しみんのチカラ

市民力

市民自らできることは自ら行い、自分たちの地域は自ら創っていくという「自助」の心がけが欠かせません。市民一人ひとりが上田市のために何ができるかを考え、参加するまちづくりを進めます。

ちいきのチカラ

地域力

地域力向上のためには、地域コミュニティを土台とする、共に支え合う「共助」が欠かせません。福祉、環境、子育て、教育、防災などの分野において、実践的な仕組みによる支え合いのまちづくりを進めます。

ぎょうせいのチカラ

行政力

行政サービスの維持・向上を図り、協働のまちづくりを進めるために、行政力「公助」の向上が不可欠です。職員の意識改革と横断的連携を図り、不断の行財政改革を行い、市民とともに歩む行政経営を進めます。

協働

とは、市民、地域コミュニティ（自治会など）、市民活動団体、事業者、行政など、様々な人や組織が、共通する課題の解決や目的実現のため、互いの特性を認め、対等な立場で役割分担を行いながら協力し、主体的に活動することです。

協働によって、各主体の特性や得意分野を生かし、ネットワークを利用することで、単独で行う以上に市民が望む幅広い事業展開ができるなど高い効果が発揮されます。

施策大綱

将来都市像の実現に向け、推進する施策の6つの方向性と基本目標を次のように掲げます。

施策の方向性

基本目標

自治・協働・行政

市民が主役のまちづくり

笑顔 あふれ、互いに尊重し合い、いきいき暮らせるまちをつくる主役は「ひと・地域」です。不断の行財政改革の取組のもと、市民協働と地域内分権のまちづくりを進め、将来にわたって、暮らしやすさと健全財政を両立し、持続的に発展するまちを目指します。

自然・生活環境

安全・安心な快適環境のまちづくり

一人 ひとりの意識と行動が環境、景観、安全を守ります。市民協働で、自然や住環境の保全、防災・防犯に取り組み、次世代に引き継ぎます。暮らしを支える様々なインフラの計画的な整備と公共施設マネジメントにより、快適な市民生活を維持し、賑わいと交流を生み出します。

産業・経済

誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり

市民 の安心の暮らし、若者世代の結婚、出産、子育てに、安定した雇用が欠かせません。それぞれの産業が持つ特色、潜在力を伸ばし、働くなら上田、買い物なら上田、訪れるなら上田の活力を生み出し、暮らし続けられるまち、新たな人の流れを呼び込むまちを目指します。

健康・福祉

ともに支え合い健やかに暮らせるまちづくり

豊か で幸せが感じられる暮らしに、心と体の健康が欠かせません。地域医療の充実と一人ひとりの健康寿命延伸を目指します。社会保障の充実を図り、ともに支え合う地域福祉を推進し、誰もが安心して暮らせるまちづくり、子どもを産み育てる幸せが感じられるまちづくりを進めます。

教育

生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり

未来 の上田市を支え切り拓くのは、無限の可能性を持つ子どもたちです。学ぶ意欲や生きる力を育み、夢や希望を持ってたくましく自立する人材を育てます。生涯学習*やスポーツは、健康*づくりに欠かせない要素です。誰もがいつでも気軽に学び親しめる環境をつくり出します。

文化・交流・連携

文化を育み、交流と連携で風格漂う魅力あるまちづくり

文化 芸術は生活に潤い、豊かさ、活力を与え、人を惹きつけるまちの魅力や風格を生み出します。受け継いだ文化を守り生かしながら、新たな文化を創造します。まち・ひと・しごこの好循環を生むために、交流・連携が重要な視点です。地域資源を生かし、人と人、まちとまちをつなぎ、賑わいと活力を生み出します。

後期まちづくり計画における指標体系

「KGI」 (重要目標達成指標) 「上田市の総人口」
平成27(2015)年 156,827人 ⇒ 令和7(2025)年 15万人以上

「CSF」 (重要成功要因) <<KGIを達成するための重要な要素>> 総合戦略*の数値目標		
内容	基準値	計画目標(令和7年度)
◆従業者数(全業種)	71,860人(平成28年)	73,000人
◆産業が元気なまちになっていると感じる市民の割合	12.8%(令和元年度)	20.0%
◆合計特殊出生率*	1.52(平成30年)	1.61
◆社会移動(転入者数-転出者数)	▲68人(令和元年)	213人
◆健康寿命	女性:83.19歳 男性:78.92歳(平成22年)	女性:延伸 男性:延伸

「KPI」 (重要業績評価指標) <<CSFの進捗状況を測る指標>> (主なもの)		
内容	基準値	計画目標(令和7年度)
●自治会や各種団体等で構成される住民自治組織の設立数	11組織 (令和元年度)	市内全域で設立 ※最大15組織を想定
●市内路線バス輸送人員数	116.2万人 (令和元年度)	115.0万人
●6次産業化*認定事業所数(累計)	3事業所 (令和元年度)	6事業所
●特定保健指導*実施率	75.8% (令和元年度)	82.0%
●特色ある学校教育の取組に対する市民満足度	23.1% (令和元年度)	30.0%
●空き家情報バンクを利用した移住・定住者の数	25人 (令和元年度)	250人 (25人/年 10年間)

平成28年3月策定の「前期まちづくり計画」では、令和7年における上田市の将来目標人口を14万6千人以上に設定していましたが、平成30年3月公表の国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計によると、上田市の人口は令和7年に14万9千人と、将来目標人口に対し3千人程度増加すると予想されました。

しかしながら、令和27年には、平成27年の15万6千人から約8割に相当する12万8千人程度まで減少すると予想され、地域経済の縮小や地域コミュニティの担い手不足、年金・医療・介護を中心とした社会保障費用の増加など、様々な面に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

こうした中、「後期まちづくり計画」では、令和2年3月改訂の「上田市版人口ビジョン」での推計をもとに、計画全体の成果を測る最上位の指標として、令和7年における上田市の将来目標人口を15万人以上に設定し、後期5年間における地方創生の取組を推進していきます。

上田市版人口ビジョンによる推計

令和7年
将来目標人口 **15万人以上**

